

終章

終わりに

本学は、1907年（明治40年）、東京都千代田区神田に私立電機学校の創立以来、建学の精神「実学尊重」、教育・研究理念「技術は人なり」のもとに実務的な技術者の養成に努めてきた。さらに、科学技術の諸分野に貢献する指導的な人材を養成することを目的とし、1949年（昭和24年）に新制大学として「東京電機大学（工学部第一部）」を設立した。現在では、東京神田キャンパス、埼玉県鳩山キャンパス並びに千葉ニュータウンキャンパスの3つのキャンパスに大学院5研究科、5学部を擁する理工系総合大学へと発展してきた。

近年では18歳人口の減少や大学大衆化により社会環境は大きく変化し、本学入学志願者も若干増加傾向にあるものの、昭和60年代と比して志願者数が約半分であることに鑑みると、厳しい問題に直面しているといわざるを得ない。

このような状況において、大学は教育改革の推進を図るためにも、絶え間なく自己点検・評価活動を実施し、改善する必要がある。

本学では、大学全体としての自己点検・評価を1996年（平成8年）に財団法人大学基準協会による相互評価を受審しているが、2004年度（平成16年度）の学校教育法の一部改正による認証評価制度の施行後、初めて、2009年度（平成21年度）に認証評価機関における認証評価を同協会において受審した。

これまで本学では、大学全体としての組織的な自己点検・評価に関する検討・実施体制が十分に機能していなかった。そこで、「東京電機大学自己評価総合委員会」及び「管理運営並びに財政等に関する自己評価委員会」の検討内容等を見直し、2008年度（平成20年度）自己点検・評価実施に向け、主に各学部長・研究科委員長により構成する「認証評価プロジェクトチーム」及び各事務部署担当者により構成する「点検・評価報告書本章作成プロジェクトチーム」を立ち上げ、自己点検・評価の機能化を図った。本報告書はその2年目にあたり、前回同様、今回も各項目について詳細に点検・評価を行った結果、本章にも示されているように、本学における教育・研究活動は、建学の精神並びに教育・研究理念に基づき、概ね適切に実施されていると評価できる。しかし、入学者の多様化に対応すべく学習支援体制の強化や教育・研究環境の充実など改善すべき課題は多く、自己点検・評価の実施が極めて重要であることを改めて認識した。

現在のところ、2012年（平成24年）4月に「東京千住キャンパス（足立区北千住駅東口）」の開設を機に策定した『東京電機大学グランドデザイン』の具現化に努めており、本自己点検・評価と関連させることは必須である。さらに、激変する社会環境に柔軟に適応すべく、社会から求められる大学として、常に改善・改革が必要である。そのためには、本学の全構成員が自己点検・評価の意義を理解し、個々の意識改革を推進し、本学の特色を生かしつつ教育・研究活動への不断の努力なしには実現しえない。

平成23年7月

東京電機大学 副学長
認証評価担当 国吉 光